

平成19年8月10日

(照会先)

医薬食品局安全対策課

倉持室長 (内線 2749)

平成19年度厚生労働科学研究費補助金「インフルエンザ随伴症状の  
発現状況に関する調査研究」について

別紙のとおり、標記研究についてお知らせいたします。

(別紙)

## 1. 平成19年度研究班について

### 研究班の構成:

平成19年度「ワクチンの有用性向上のためのエビデンス及び方策に関する研究」(主任研究者 神谷齊 国立病院機構三重病院名誉院長)(以下「神谷班」)のうちの「インフルエンザ随伴症状の発現状況に関する調査研究」(分担研究者 廣田良夫 大阪市立大学大学院医学研究科公衆衛生学教室教授)(以下「廣田班」という。)

分担研究者: 廣田良夫 (大阪市立大学大学院医学研究科公衆衛生学教室教授)

### 研究費補助金額:

廣田班 1億8821万円 (神谷班全体 2億1391万円)

うち医薬品開発業務受託機関(CRO)への委託として: 1億4700万円

### 廣田班研究協力者:

奥村彰久 (順天堂大学医学部小児科学教室准教授)

小笹晃太郎 (京都府立医科大学大学院医学研究科地域保健医療疫学准教授)

鈴木 宏 (新潟大学大学院医歯学総合研究科国際感染医学講座公衆衛生学  
分野教授)

中村好一 (自治医科大学地域医療学センター公衆衛生学部門教授)

細矢光亮 (福島県立医科大学医学部小児科学講座教授)

森 雅亮 (横浜市立大学大学院医学研究科発生成育小児医療学准教授)

森 満 (札幌医科大学医学部公衆衛生学講座教授)

山口直人 (東京女子医科大学医学部衛生学公衆衛生学第二講座教授)

※下線部は、平成19年度研究班から参加

## 2. 平成18年度調査の規模の概要

調査票: 約11,600症例(精査中)

施設数: 約700施設(精査中)

## 3. 今後の解析作業の流れ

(1) CRO(医薬品開発業務受託機関)に委託し、平成18年度研究班から厚生労働省が貸与を受けた調査票をもとに解析のベースとなるデータベース作成

(2) データベースに基づき、疫学・小児科学の専門家が中心となり解析

(3) 報告書作成

※ CRO(医薬品開発業務受託機関)は、委託業務を実施するにあたり、平成19年度研究の前段階として、調査票の作成・送付を行った平成18年度研究班(分担研究者: 横田俊平 横浜市立大学大学院医学研究科発生成育小児医療学教授)からデータベース作成のため必要に応じアドバイスを受ける。